

ゼネラルパッカー通信

2018年7月期(第57期)

2017年8月1日▶2018年7月31日



世界の品質を
“包装”で守る



包装システムのトータルプランナー

ゼネラルパッカー株式会社

証券コード 6267

社 是 **創造と挑戦** — 感ずる、信ずる、行動する —

経営理念 わが社はつねに、独創的な技術を活かし、顧客の要請に応える高品質な『商品』を提供する。

ゼネラルパッカーは、包装システムの課題解決型メーカーです。

GOT グループ



当社

各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売

- 当社主力の包装技術
- ガス充填包装
- チャック付スタンドパウチ包装

包装機械

生産機械

食品製菓機械の製造・販売



Since 1932
OSA

オサ機械株式会社

当社グループのお客様 主要ユーザー

工場

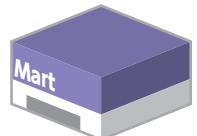
食品分野

化学分野

医薬品分野

その他

店舗



- スーパーマーケット
- コンビニエンスストア
- ドラッグストア
- ホームセンター等

病院



食品分野

キャンディ ナッツ類 お米・米菓
パン粉 小麦粉 ドリップコーヒー
花かつお お茶 チョコレート
ふりかけ かち割り氷 健康食品

化学分野

粉末洗剤 肥料

その他

ペットフード 野菜・花の種

医薬品分野

輸液パック カテーテル 粉末薬品

- 魅力1 卓越した技術力**
- 魅力2 優れた人材**
新たな包装技術の創出を進めつつ、汎用性の高い製造技術を蓄積。また、全従業員のうち 1/3 が開発部および技術部に所属、トータル人事システムに基づき、業界認定によるスペシャリストを育成しています。
- 魅力3 既存分野での高いシェア**
小麦粉、かつおパック、かち割り氷など、多くの分野でのトップシェア獲得が安定した収益基盤につながっており、当社は上場以来赤字がありません。また、オサ機械はチョコレート製造機械分野でトップシェア。▶ P9へ
- 魅力4 新規分野・海外分野への成長**
新規分野の開拓による事業領域の拡大と海外マーケットでの成長を続けています。
- 魅力5 安定した株主還元**
DOE 2%以上の安定配当を続けています。▶ P5へ

第5次中期経営計画

中期経営ビジョン

- 1 世界に選ばれ、信頼されるGPグループ
- 2 オープンイノベーションで応えるソリューションカンパニー
- 3 挑戦心と活気あふれる『ものづくり企業』

基本戦略

さらなる成長に向けて海外事業の拡大を目指す

- 1 包装機械と生産機械の事業連携により、国内市場で安定的な収益と成長を確保する
- 2 販売体制を強化し、海外市場向け売上高比率 20% 以上を目指す
- 3 世界の包装ニーズにワンストップで応え、ソリューションビジネスのさらなる拡大を図る
- 4 メカトロハイスペック包装機シリーズの商品開発を強化する
- 5 生産機械から包装機械まで一貫したシステムとサービスの提供で、顧客満足度を得る
- 6 開発力強化と事業領域拡大のためのアライアンスを推進する

経営目標

	H32.7期目標
売上高経常利益率	6.0%以上
ROA (総資産経常利益率)	6.0%以上
ROE (自己資本当期純利益率)	8.0%以上

業績目標

	H32.7期目標
売上高	7,700百万円
経常利益	475百万円
当期純利益	320百万円

国内市場で安定的な収益と成長を確保し、 海外での販売体制を強化しさらなる成長を目指します。

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業への厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。ここに当社第57期（2017年8月1日から2018年7月31日まで）の営業状況をご報告し、これからの事業展開についてご説明させていただきます。ご一読の上、引き続き当社事業への深いご理解とともに、さらなる成長にご期待くださいますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 牧野 研二

当期の事業環境と営業活動の成果

包装機械業界の事業環境は、国内の需要は堅調に推移しているとともに、2017年度の輸出高も6年連続でプラスとなり好調を維持しています。品目分類においては、当社の主要対象市場である製袋充てん機の生産金額が2018年上半期において前年同期比10.0%増となっており、高水準を保っています。（経済産業省 生産動態統計より）

当社の包装機械の業績においては、売上高は高価格機種の販売台数増加により、前期比448百万円の増加となりました。また、大型案件の受注増加により、機械受注高は前期比697百万円、機械受注残高は前期比609百万円の増加となりました。

製パン・製菓機械業界の事業環境は、2018年上半期の生産金額は、前年同期比4.8%増となっています。国内の製パン・製菓機械需要は増加基調で推移しています。



【包装機械】 国内・海外市場別売上高（エンドユーザー市場）



当社の生産機械の業績においては、売上高は微増に留まったものの、大型プラントの受注により、機械受注高は前期比1,226百万円、機械受注残高は前期比909百万円の増加となりました。

2019年上期の受注につきましては、包装機械・生産機械ともに、高額案件の件数増加を目指していきます。

3か年中期経営計画の初年度として

第5次中期経営計画（2018年7月期～2020年7月期）は、「さらなる成長に向けて海外事業の拡大を目指す」を基本戦略に掲げています。また、3年間の計画期間を「連結グループの基礎固めから成長基盤構築の時期」と位置づけ、連結決算での利益率の向上と収益の拡大を図ることに取り組んでおります。

その結果として、包装機械の国内市場における2018年7月期の実績は、計画を大きく上回り、前期比308百万円の増加となりました。国内市場での安定

的な収益の成長と確保につきましては、主力機種としてメカトロハイスペック包装機の拡販に注力しており、受注は好調に推移しております。今後、さらなる拡販を強化するとともに、新機種の投入を計画しております。

包装機械の海外市場においては、計画を下回ったものの、前期比372百万円の増加となりました。海外事業の拡大につきましては、中国子会社での生産・アフターサービス体制の確立に取り組んでおり、中国子会社の売上高は220百万円となりました。販売体制の強化につきましても、既存代理店の販売支援に取り組むとともに、アメリカと中国市場の開拓を強化してまいります。

第58期の見通し

2019年7月期の業績見通しについては、売上高7,200百万円（当期比1.4%増）、営業利益398百万円（同7.2%増）、経常利益400百万円（同6.2%増）、親

会社株主に帰属する当期純利益270百万円(同3.7%増)を予想しています。セグメント別売上内訳予想としまして、包装機械においては、保守消耗部品の増加により増収となる見通しです。機械の売上高については、製袋自動包装機が増加するものの、大型システムの減少に伴い包装関連機器等が減少することから、全体として、微減になる見通しです。生産機械においては、大型プラントの増加により増収となる見通しです。

当社は食品や医薬品を安全・確実に包装する技術を通じて、より大きな社会貢献を果たせるよう、一層の努力を重ねるとともに、業績の向上と企業の健全性に努めていきたいと考えております。

株主の皆様におかれましては、今後とも当事業への継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

株主の皆様へのメッセージ

2018年7月期は、期初の業績予想を達成できましたので、年間配当は期初の配当予想通りの44円とさせていただきます。2019年7月期は、増益予想により1円増配の年間で45円を予定しております。

株主還元方針

株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、連結配当性向 30%または連結純資産配当率(DOE) 2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指しています。

1株当たり配当金



配当性向



純資産配当率 (DOE)



特集

2018中部パックにて 給袋ロボット連動システムや GP-M3550など注目の包装機を出展!

2018年4月18日から21日まで、ポートメッセなごやにて「2018中部パック」が開催されました。この展示会において当社は、お客様の生産性や品質向上、商品企画などに役立つソリューション提案を行うため、5つの最新機械を出展。その機械の中から、来場者の方から特に注目を浴びた2つの機械についてご紹介します。



次世代の包装機を担う注目の機種

給袋ロボット連動システム GP-M3000UST型



GP-M3000型と双腕ロボットの組み合わせにより、袋セットを人手なしで完全自動化。作業の省人化を実現でき、経営課題解決の手助けになります。

ここが注目ポイント!

- ▶ 袋セットを完全自動化
- ▶ 双腕ロボットを用いた袋の安定供給
- ▶ 人手不足の解消

同調ジョーゴタイプ GP-M3550UST型

GP-M3550型と直進型計量機を連動。同調ジョーゴタイプとしては初出展でした。



ここが注目ポイント!

- ▶ 高速充填包装
- ▶ ガス充填システム搭載可能

TOPICS

筆頭株主である 株式会社FAMSの事業 「食の自動化」に 包装技術で協力

2018年8月1日付で筆頭株主となった株式会社FAMSは、野菜生産システム用装置の生産・販売を主力事業としています。農産物生産における「農の工業化」から食品加工における「食の自動化」まで、食品市場におけるソリューション開発を行っております。当社の主力事業である包装技術を用いて「食の自動化」でのシナジーを生み出します。互いの強みを活かし、新たなビジネスに取り組んでまいります。

経営成績に関する定性的情報

当連結会計年度におけるわが国経済は、個人消費に持ち直しの動きが見られ、企業収益や雇用・所得環境に改善が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

このような状況のなか、当社グループは海外事業の拡大、グループ会社間の事業連携強化に取り組んでまいりました。

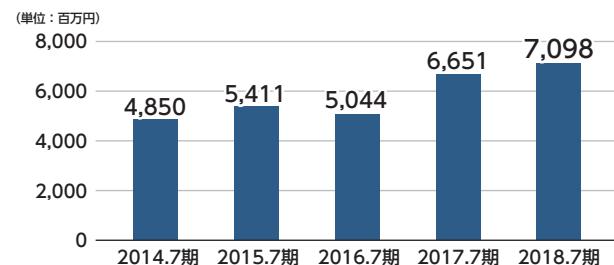
当連結会計年度における売上高は、包装機械事業が好調に推移したことから前連結会計年度に対し増収となりました。利益につきましては、売上総利益率が

前期比0.6%低下したものの、増収の効果及び前連結会計年度において発生した子会社株式取得に係る費用が当連結会計年度は発生しなかったこと等により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益ともに前連結会計年度に対し大幅な増益となりました。

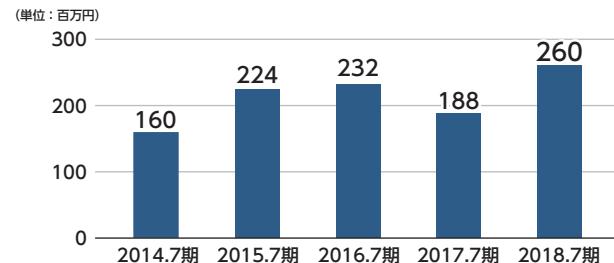
セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

包装機械事業は、売上高は6,163百万円、営業利益は354百万円となりました。また、生産機械事業は、売上高は936百万円、営業利益は16百万円となりました。

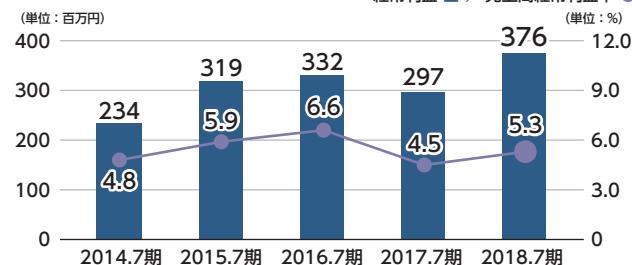
売上高



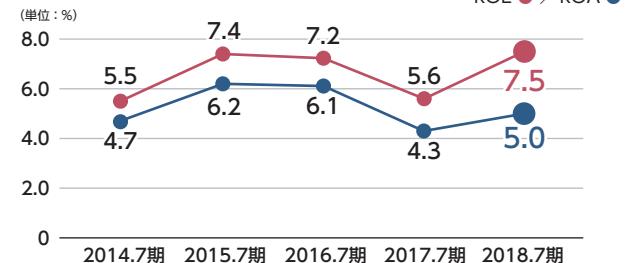
親会社株主に帰属する当期純利益



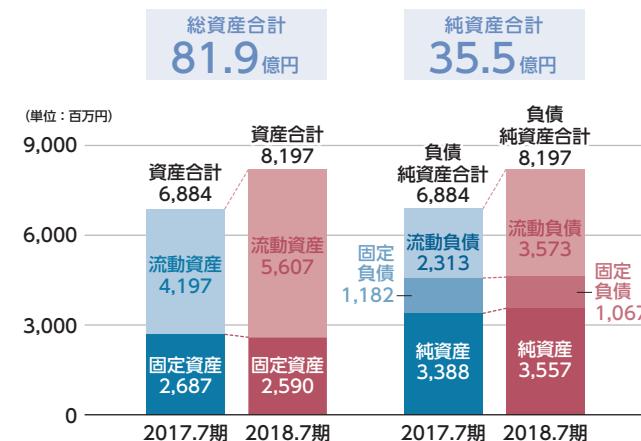
経常利益 / 売上高経常利益率



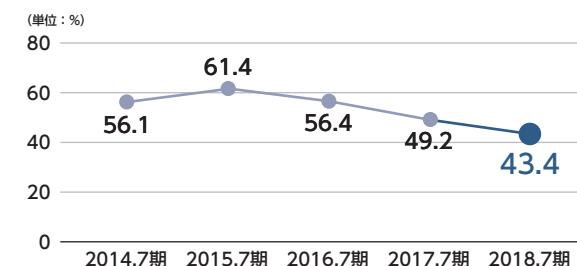
ROE / ROA



財務状況



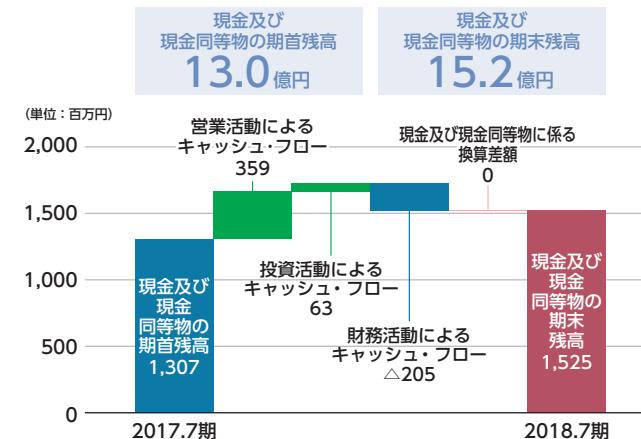
自己資本比率



財務分析

当連結会計年度末における資産合計の増加した主たる要因は、棚卸資産が1,083百万円増加したこと等によります。負債合計の増加した主たる要因は、仕入債務が765百万円、前受金が420百万円、それぞれ増加したこと等によります。純資産合計の増加した主たる要因は、自己株式が47百万円増加したものの、利益剰余金が189百万円、資本剰余金が24百万円、それぞれ増加したこと等によります。

キャッシュ・フローの推移



キャッシュ・フロー分析

営業活動の結果得られた資金は、359百万円（前期は53百万円の使用）となりました。収入の主な内訳は、仕入債務の増加額764百万円、前受金の増加額420百万円、税金等調整前当期純利益376百万円等であり、支出の主な内訳は、棚卸資産の増加額1,083百万円であります。投資活動の結果得られた資金は、63百万円（前期は1,382百万円の使用）となりました。収入の主な内訳は、定期預金の純減額100百万円等であり、支出の主な内訳は、固定資産の取得による支出28百万円等であります。

(注) 2016年9月1日付でオサ機械株式会社を完全子会社化いたしました。そのため、2016年7月期までは単体、2017年7月期以降は連結決算となっております。

■包装機械

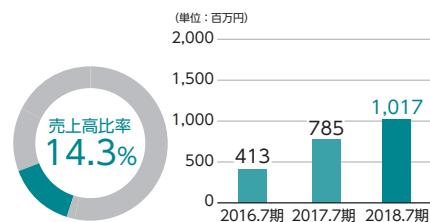
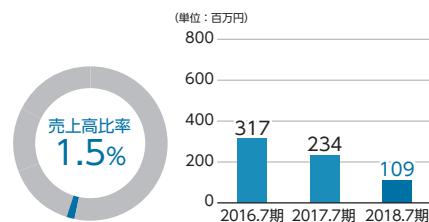


包装機械事業におきましては、給袋自動包装機の販売台数が増加したこと等から、売上高は6,163百万円（前期比7.7%増）、営業利益は354百万円（前期比4.1%減）となりました。

給袋自動包装機（ガス充填自動包装機含む）

製袋自動包装機

包装関連機器等



売上高 3,794 百万円 前期比17.8%増

売上高 109 百万円 前期比53.5%減

売上高 1,017 百万円 前期比29.6%増

■生産機械



生産機械事業におきましては、保守案件の実績が増加したこと等から、売上高は936百万円（前期比1.0%増）、営業利益は16百万円（前期は営業損失0百万円）となりました。



売上高 936 百万円 前期比1.0%増

機械受注高



(注) 2016年9月1日付でオサ機械株式会社を完全子会社化いたしました。そのため、2016年7月期までは単体、2017年7月期以降は連結決算となっております。

最終ユーザー業界別売上高



■会社概要 (2018年7月31日現在)

商号	ゼネラルパッカー株式会社
英文社名	GENERAL PACKER CO., LTD.
設立	1966年2月(創業 1961年12月)
資本金	2億5,157万7千円
事業内容	各種自動包装機械及び周辺装置の製造・販売、食品製菓機械の製造・販売
従業員数	175名(連結) 147名(単体)
本社・工場	〒481-8601 愛知県北名古屋市宇福寺神明65番地 Tel.(0568) 23-3111 (代) Fax.(0568) 22-3222
東京営業部	〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F Tel.(03) 3256-3891 (代) Fax.(03) 3256-3893
子会社	オサ機械株式会社 蘇州日技通用包装機械有限公司



■役員 (2018年10月25日現在)

代表取締役社長	牧野 研二
取締役会長	梅森 輝信
取締役副社長	小関 幸太郎
常務取締役	鈴木 完繁
取締役	尾関 津義
社外取締役(監査等委員)	福井 義雄
社外取締役(監査等委員)	村橋 泰志
社外取締役(監査等委員)	浅井 一郎
社外取締役(監査等委員)	福田 哲哉

オサ機械(株) 代表取締役
オサ機械(株) 代表取締役社長
蘇州日技通用包装機械有限公司 董事長

■株式の状況 (2018年7月31日現在)

発行可能株式総数	5,600,000株
発行済株式総数	1,798,800株
株主数	463名

■大株主 (2018年7月31日現在)

株主名	持株数(株)	議決権比率(%)
株式会社ワイ・イー・データ	270,000	15.03
ゼネラルパッカー従業員持株会	249,700	13.90
MSIP CLIENT SECURITIES	86,400	4.80
ゼネラルパッカー取引先持株会	81,200	4.52
株式会社りそな銀行	78,400	4.36
高野 季久美	77,800	4.33
田中 かな	77,800	4.33
梅森 輝信	53,700	2.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	48,100	2.67
原 典子	47,488	2.63

(注) 株式会社ワイ・イー・データの持株は、2018年8月1日付で、会社分割により株式会社FAMSへ承継されています。

■株主数構成比



個人・その他	425名	91.79%
その他法人	23名	4.97%
証券会社	8名	1.73%
金融機関	3名	0.65%
外国人	3名	0.65%
自己名義	1名	0.21%

■株式数構成比



個人・その他	1,229,422株	68.35%
その他法人	336,080株	18.68%
金融機関	127,000株	7.06%
外国人	91,400株	5.08%
証券会社	13,429株	0.75%
自己名義	1,469株	0.08%

IR サイトでも、詳しい情報を提供しています。

当社ホームページでは、新着情報、会社情報、商品情報、IR情報等、様々な情報をご提供しています。今後も皆様にお役立ていただけるよう掲載情報の一層の充実を図ってまいります。

http://www.general-packer.co.jp/ir_index.html

企業ホームページ
最優秀サイト

日経アイ・アール
新興市場ランキング

7年連続受賞

主なコンテンツ

経営方針・戦略

当社の企業ビジョンや中期経営計画、CSR 情報などをご覧いただけます。

決算・IR資料室

アナリスト向けの決算説明会の様子が動画でご覧いただけます。

1. 決算説明会
2. IR カレンダー
3. 個人投資家の皆様へ

お勧め情報 ランキング

IR サイトの中から株主や投資家の皆さまのお役に立つ、当社お勧めの情報をランキング形式で紹介します。(不定期更新)



個人投資家の皆さまへ

業界情報や事業内容や特長、配当についてわかりやすく解説しています。



▲トップページ

株主メモ

事業年度	8月1日から翌年7月31日まで
定時株主総会	10月
基準日	定時株主総会 7月31日 期末配当金 7月31日 中間配当金 1月31日 その他あらかじめ公告する一定の日
株主名簿管理人	東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社

同事務取扱場所	〒103-8202 東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号 日本証券代行株式会社 本店
お問い合わせ先	〒168-8620 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 日本証券代行株式会社 代理人部 Tel. 0120-707-843 (フリーダイヤル)

公告方法 電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

公告掲載URL <http://www.general-packer.co.jp/>

各種手続きのお申出先

- 未払配当金のお支払いについては、株主名簿管理人にお申出ください。
- 住所変更、単元未満株式の買取、配当金受取方法の指定等証券保管振替機構（ほふり）をご利用の株主様は、お取引の証券会社へお申出ください。証券保管振替機構（ほふり）をご利用でない株主様は、特別口座の口座管理機関である日本証券代行株式会社へお申出ください。

包装システムのトータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

● 本社・工場
〒481-8601 愛知県北名古屋市長古屋宇福寺神明65番地
Tel. (0568) 23-3111 (代) Fax. (0568) 22-3222

● 東京営業部
〒101-0045 東京都千代田区神田鍛冶町三丁目5番地8 神田木原ビル4F
Tel. (03) 3256-3891 (代) Fax. (03) 3256-3893

